

令和7年度自己評価結果公表シート

一. 教育目標

心身共に健康で円満な人格形成の基盤を培い、創造性を養い、幼児の個性を伸ばすことを目標としています。

1. 自分で考え、工夫するたくましい子に育てます。(自立)
2. のびのびと自分を表現できる子に育てます。(個性)
3. 社会のルールを身に付けた協調性のある子に育てます。(社会性)
4. 優しく思いやる子に育てます。(心)

二. 本年度の重点目標

文部科学省が示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の実現に向け、本年度は、「幼児の主体性」「遊びを通した学び」「職員の協働」を軸に、教育要領の方向性と本園の教育目標をより深く結びつける一年と位置づけます。幼児の主体性を尊重し、遊びを通して学びが深まる環境づくりを進め、過度な知識偏重ではなく、探究心や表現力を育む保育を推進します。また、職員間の連携を一層強化し、クラス・学年を超えて協働する体制を整え、園全体で幼児の育ちを支える組織的な保育を展開します。

三. 自己評価結果 自己評価は段階評価とした。この評価結果は三学期末での評価である。4点満点であり評価点は教職員の平均点である。

達成されている	A	概ね達成されている	B
取り組まれているが十分ではない	C	取り組みが不十分である	D

I 保育の計画性

1. 園の教育理念・教育方針の理解	評価
・園の教育理念や教育方針を理解している。	B
2. 幼稚園教育要領の理解	評価
・幼稚園教育要領の内容について、園長や教職員と話し合っている。	B
3. 教育課程の編成	評価
・園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている。	B
4. 指導計画の作成	評価
・園の方針を月案や保育に活かし作成している。	B
・幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。	B
5. 環境の構成	評価
・遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している。	A
・子どもの動線、目線に配慮した環境構成をしている。	A
・季節の変化に応じた環境構成をしている。	A
6. 保育と計画の評価・反省	評価
・自分の保育と計画の評価・反省を行なっている。	A
・自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に活かせるように行っている。	B

Ⅱ 保育のあり方・子どもへの対応

1. 健康と安全への配慮	評価
・朝の登園時は特に視診を大切にして、子どもの体調が悪くないか確かめている。	A
・万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者へ連絡を取り、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている。	A
2. 子どものみとりと理解	評価
・一人ひとりの子どもをよく観察するよう心がけている。	A
・子どもの姿を、家庭での生活をふまえて理解している。	B
・子どもたちがいま何に興味や関心を持っていることが分かる。	A
3. 指導とかかわり	評価
・子どもの気持ちに共感しながら一緒に遊ぶ。	A
・子どもの心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない。	A
・子どもの話をよく聞くようにしている。	A
4. 保育者同士の協力・連携	評価
・教職員全員がすべての園児について理解し情報を共有する。	B
・指導上配慮を必要とする子どもについて、園全体で特によく話し合い、共通理解を持って対応する。	B
・クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換する。	A

Ⅲ保育者としての能力や良識・適正

1. 専門家としての能力・良識・義務	評価
・保護者に対し、子どものことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができるよう努めている。	B
・子どもや保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。	A
・クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。	B
2. 組織の一員としてのあり方	評価
・教職員全員でひとつのチームであることを意識する。	A
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる。	B
・与えた役割を、最後まで責任を持ってやり遂げることができる。	B
3. 保育者として保育の楽しみ・喜び	評価
・子どもと会話をしたり遊んだりすることが好きで、ささやかな成長を喜ぶことができる。	A
・子どもの悩みに寄り添い共に考え、望ましい方向へ変容していく過程に喜びを感じる。	A
4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	評価
・仕事も大切にしながら自分の時間も大切にする。	A
・子どもや教育に関する情報をたえずとらえようとし、社会の出来事にも目を向ける。	B

IV 保護者への対応

1. 情報の発信と受信	評価
・ クラスの子どもの様子や保育のポイント、自分の考え方などを毎月のクラスだよりなどで知らせている。	B
・ 個々の子どもの様子は、直接話をしたり電話やアプリのメッセージ機能を使って伝えている。	A
・ 年3回個人懇談を設け、個々の子どもの特性を保護者に伝えている。	A
2. 協力と支援	評価
・ 保護者からのさまざまな訴えや要望、意見については、安易に受けたり断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任に報告や相談を行っている。	A
・ 保護者の協力が必要な場合、園長と協議し具体的な協力のあり方について話し合っている。	A
3. 守秘義務の遵守	評価
・ 保護者の住所や電話番号など、個人情報の管理は園の方針に従い、子どもや家庭の情報を口外しない。	A
4. 対応上のマナー・良識	評価
・ 園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がける。	A
・ 保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応する。	A
5. クレームに対する対処の仕方	評価
・ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に 連絡、報告、相談する。	A
・ クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する。	A

V 地域の自然や社会との関わり

1. 情報の発信と受信	評価
・園に対するさまざまな問い合わせや質問にはきちんと対応することができる。	B
・園へ見学にきた人に園の教育方針等を質問されてもきちんと答えることができる。	B
・いつでも保護者と個人懇談ができるよう、子どもの資料が整理できている。	B

VI 研修と研究

1 研修・研究への意欲・態度	評価
・研究保育を参観するときは自分なりの課題と視点をもって観る。	B
・自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行なう。	B
2 教材研究	評価
・遊具や教材について、その特徴や基本的な使い方を知っている。	B
・遊具や教材について、その利用方法について工夫研究している。	B
・ICT や新しい教具について研究している。	C
3 自らを高めるための学習	評価
・保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書などにも取り組んでいる。	B
・いろいろな人とかわり、自分の視野を広げようとしている。	B

四．学校評価委員会の評価

(12月誕生日会・クリスマスコンサート、日常保育、給食試食を行った)

以下、委員会後のアンケートをまとめたものである。

1．幼稚園の子どもたちの表情や全体的な雰囲気について

園児一人ひとりの瞳が輝き、生き生きとした様子が見られるとの意見が多く寄せられた。園内には季節感のある飾りや制作が工夫されており、日本の行事を体験しながら学ぶことができる環境が整っており、明るく、楽しそうで、元気な園の様子がうかがえる。

2．誕生日会・クリスマスコンサートについて

園全体で子どもたちを心から祝う姿勢が感じられ、嬉しさや喜びが溢れる行事であったとの評価がなされた。特に誕生日会における大きなメダル、写真、メッセージなどは心がこもっており、保護者も共に喜びを味わえる内容であった。全体として、非常に素晴らしく、楽しい時間であった。

3．教職員の子どもへの関わりについて

教職員が園児と目線を合わせ、しっかりと向き合っている点に感心したとの声が寄せられた。言葉かけは優しく温かく、見ている側も励まされるような姿であり、教職員が心から子どもたちを大切にしている様子がうかがえる。

4．年間行事の内容・量について

年間行事の内容および量については適正であり、よく考えられ、全体として調和が取れているとの意見であった。無理のない計画で、園児にとっても充実した行事構成である。

5．給食について

和食中心の献立について高い評価が寄せられた。具体的には、さんま、切り干し大根の煮物、味噌汁、ご飯、デザートといった献立において、魚は柔らかく骨もなく、煮物は体づくりに良い内容であり、非常に美味しくいただけたとの意見である。日本食の良さを大切にした給食であると評価された。

6．安全面について

登園・降園時における園前での交通安全への配慮が丁寧になされており、安全面での不安は特に感じられない。

7. 設備面について

新しく整備されたピアノについて、非常に弾きやすく、園児の表情も見やすくなったとの評価があった。また、音色が美しく、子どもたちが元気に歌っている様子が印象的である。

8. その他の意見

教職員は常に園児に寄り添いながら、新しいことにも積極的に挑戦し、保育のアップデートを行っているとの評価が寄せられた。園児との信頼関係が日々の指導に結びついていることが感じられるとのことである。また、体調不良（嘔吐）時の対応が迅速かつ的確であり、教職員間のチームワークの良さが際立っていたとの意見があった。園児を安心して預けることができる園であると高く評価され、今後への期待とともに引き続きの取り組みを望む声が寄せられた。

五. 今後取り組むべき課題

令和8年度の課題としては、教育課程や教育要領の理解をさらに深め、年間指導計画と日々の保育を確実に結びつけることが求められる。保育のねらいや意図を明確にし、計画的・意図的な保育を実践する力を高めることが重要である。また、個々の子どもへの丁寧な関わりを継続しつつ、集団全体を見通す視点を育て、幼児理解の幅を広げていく必要がある。ICTに苦手意識を持つ教員への支援も課題であり、園内外の研修を通して活用スキルを向上させたい。さらに、日々の保育を振り返り、自己評価を保育改善につなげる姿勢を定着させることで、専門性の向上と保育の質の向上を図る。職員間の連携を強化し、組織的に保育を進める体制づくりも引き続き重要となる。